

タイトル「2022：鹿児島純心女子大学」、フォルダ「鹿児島純心女子大学-看護栄養学部-看護学科-1年生-専門教育科目-看護の軸となる領域-健康の科学」シラバスの詳細は以下となります。

戻る

ナンバリング	21149SC07		
科目名	健康論		
担当教員	浅野 倫子		
配当年次	1年	グループ	11
講義室	(5-403)	開講時期	前期
曜日・時限	月1	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	1
関連資格			
備考	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		
到達目標	<p>本科目の目的は、「健康」という概念について、どのような捉え方や考え方があるのか、これまでの歴史を振り返り理解するとともに、現代の多様化している価値観や環境のなかでの「健康」について考えることができることを目的としている。到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.健康の概念について理解することができる。</li> <li>2.健康と生活（環境）との関連性について理解することができる。</li> <li>3.1,2を踏まえて、現代の健康課題がどのようなものがあり、どんなことが関連しているのかを考えることができる。</li> </ol>		
授業の展開計画	<p>健康の概念について、どのような考え方や捉え方があるのかを歴史的背景とともに理解し、各理論家が提唱している「健康」についてグループワーク等を通して、多様な捉え方があることを学ぶ。また、障害についてをICFの視点から生活（環境）と関連させながら、健康と生活についての自身の考えを深める。これらを踏まえて、現代の健康課題について、グループワーク等によって、自分自身の考えを述べるができるよう授業を展開する。</p> <p>なお、講義にあたっては、病院や訪問看護ステーションにおける看護師としての実務経験による事例を活用しながら展開する。</p>		
	回	内容	
	1	健康とは	
	2	障害とは	
	3	健康と生活（環境）について	
	4	ライフサイクルと健康	
	5	現代の健康課題（1） こどもの成長と健康	
	6	現代の健康課題（2） 高齢者と介護	
	7	現代の健康課題（3） 家族の健康	
	8	事例検討 現代の健康課題についてグループワークを通して、「健康」についてとその支援についてを学ぶ	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.健康課題や社会情勢に関連するニュース等に関心をもって、学修内容と関連づけて考えるよう努力すること。</li> <li>2.グループワーク等で自分の意見を述べ、積極的に授業に参加すること。</li> </ol>		
準備学習（予習・復習等）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.新聞や文献等を読んで現代の健康課題について、自分の考えをまとめておく。</li> <li>2.自分自身が考える「健康」について、各回の授業のなかで考えることができるよう関連するキーワードについて調べておく。</li> </ol> <p>1回の授業に対し4時間程度の時間外学習が必要である。</p>		
評価方法	受講態度10% 課題（グループワーク含む）40% レポート50%		
テキスト	茂野香おる著(2020)『系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学〔1〕看護学概論』医学書院（全員購入）		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.小泉俊三著（2022）『系統看護学講座専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕総合医療論』医学書院</li> <li>2.神馬征峰著（2019）『系統看護学講座専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕公衆衛生』医学書院</li> </ol>		



タイトル「2022：鹿児島純心女子大学」、フォルダ「鹿児島純心女子大学-看護栄養学部-看護学科-1年生-専門教育科目-看護の軸となる領域-健康の科学」シラバスの詳細は以下となります。



ナンバリング	21149SC09		
科目名	生体栄養学		
担当教員	坂井 恵子		
配当年次	1年	グループ	11
講義室	(5-403)	開講時期	後期
曜日・時限	木2	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	2
関連資格			
備考	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		
到達目標	栄養は健康の維持、増進、さらに、メタボリックシンドローム・糖尿病・がんなど疾病予防としての役割が重要である。授業では看護の面で必要とされる栄養生化学を学ぶ。目標：①栄養素の種類・構造・機能を理解して覚える。②糖質・たんぱく質・脂質の生体内における代謝を理解する。③栄養摂取基準の意味を理解できる。④栄養と疾病との関係について考察できる。		
授業の展開計画	栄養素の種類・構造・機能、各栄養素の生体内における代謝、栄養摂取基準、栄養と疾病との関係などについて授業を展開していく。		
	回	内容	
	1	栄養の概念、定義、食物と栄養	
	2	糖質の栄養：構造・種類・機能。糖質の消化・吸収について。 食物繊維について。	
	3	糖質の代謝：エネルギー源としての作用。アルコール代謝。 血糖とその調節	
	4	脂質の栄養：構造・種類・機能。脂質の消化・吸収について。 脂質の臓器間輸送	
	5	脂質の代謝：貯蔵エネルギーとしての作用、 脂肪酸由来の生理活性物質、 摂取する脂質の量と質の評価	
	6	たんぱく質の栄養：構造・種類・機能。たんぱく質の消化・吸収について。 アミノ酸の臓器間輸送	
	7	たんぱく質の代謝：たんぱく質の合成と分解、 たんぱく質・アミノ酸の体内代謝、 摂取するたんぱく質の量と質の評価	
	8	糖質・脂質・たんぱく質の相互作用：肝臓、筋肉、脳	
	9	糖質・脂質・たんぱく質の相互作用、エネルギー代謝、糖新生	
	10	満腹・空腹・食欲、肥満、低栄養について	
	11	・ビタミンの種類・機能 ・酵素・補酵素	
	12	・ミネラルの栄養：種類・機能（生体機能の調節機構、酵素反応、他） ・水、電解質の働き	
	13	食事摂取基準について	
	14	ライフステージと栄養	
	15	栄養療法：疾患と栄養	
16			
履修上の注意事項	授業で習ったあとは必ず復習し、理解しておく。わからないことは、授業中に遠慮せずに質問すること。		
準備学習（予習・復習等）	復習は必ず毎回の授業で行うこと。演習問題にあたることも理解する上で効果がある。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。		
評価方法	期末テスト	50%	
	中間テスト	50%	
テキスト	脊山洋右 他編（2021）『栄養生化学 第4版 人体の構造と機能2 新体系看護学全書』 メジカルフレンド社（全員購入）		
参考文献	適宜紹介		
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎ 汎用的技能 ○ 知識・理解 ○ 態度・志向性		



---

Copyright (c) 2004-2013 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2022：鹿児島純心女子大学」、フォルダ「鹿児島純心女子大学-看護栄養学部-看護学科-2年生-専門教育科目-看護の軸となる領域-健康の科学」シラバスの詳細は以下となります。

戻る

ナンバリング	21249SC39																																				
科目名	精神健康論																																				
担当教員	前原 宏美																																				
配当年次	2年	グループ	11																																		
講義室	(5-402)	開講時期	前期																																		
曜日・時限	水2	単位区分	必																																		
授業形態	講義	単位数	2																																		
関連資格																																					
備考	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。																																				
到達目標	<p>目的 人間の健康を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、精神の構造と機能、精神（心）の健康について学ぶ。また、対象理解の基盤となる自己理解、他者理解を深めるためのコミュニケーション技術と精神看護実践における相互作用場面、援助的人間関係について学ぶ。</p> <p>目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康について理解できる。</li> <li>2. 事例をもとにバイオ・サイコ・ソーシャルモデルから対象を理解できる。</li> <li>3. 環境と精神の健康について理解できる。</li> <li>4. 患者―看護師関係の発展段階とその効果について理解できる。</li> <li>5. 対象理解を深めるためのコミュニケーション技術について理解できる。</li> </ol>																																				
授業の展開計画	<p>本授業は、人間の健康を身体的・精神的・社会的側面からとらえ、その人らしい生活を送るための「こころ」のあり方全般における知識や、精神看護実践技術の基礎、自己理解としてのプロセスレコード、対象理解を深めるコミュニケーションについて学ぶ。また、病院における看護師としての実務経験による事例を一部含んだ授業内容になる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>精神の健康のとらえ方</td></tr> <tr><td>2</td><td>バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる対象理解</td></tr> <tr><td>3</td><td>精神の構造と機能</td></tr> <tr><td>4</td><td>ストレスと精神の健康</td></tr> <tr><td>5</td><td>家族と精神（心）の健康</td></tr> <tr><td>6</td><td>暮らしの場と精神（心）の健康</td></tr> <tr><td>7</td><td>現代社会と精神（心）の健康：社会構造の変化と社会病理</td></tr> <tr><td>8</td><td>現代社会と精神（心）の健康：現代社会における精神保健の主な問題</td></tr> <tr><td>9</td><td>基本的なコミュニケーション</td></tr> <tr><td>10</td><td>対象理解を深めるためのコミュニケーション</td></tr> <tr><td>11</td><td>患者―看護師関係の発展段階とその効果</td></tr> <tr><td>12</td><td>対人関係からみるプロセスレコード</td></tr> <tr><td>13</td><td>事例をもとにコミュニケーションについて考える</td></tr> <tr><td>14</td><td>プロセスレコードをもとに自分のコミュニケーションを振り返る</td></tr> <tr><td>15</td><td>医療者および養護教諭としての自己の精神の健康を保持増進するための課題を考える</td></tr> <tr><td>16</td><td></td></tr> </tbody> </table>			回	内容	1	精神の健康のとらえ方	2	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる対象理解	3	精神の構造と機能	4	ストレスと精神の健康	5	家族と精神（心）の健康	6	暮らしの場と精神（心）の健康	7	現代社会と精神（心）の健康：社会構造の変化と社会病理	8	現代社会と精神（心）の健康：現代社会における精神保健の主な問題	9	基本的なコミュニケーション	10	対象理解を深めるためのコミュニケーション	11	患者―看護師関係の発展段階とその効果	12	対人関係からみるプロセスレコード	13	事例をもとにコミュニケーションについて考える	14	プロセスレコードをもとに自分のコミュニケーションを振り返る	15	医療者および養護教諭としての自己の精神の健康を保持増進するための課題を考える	16	
回	内容																																				
1	精神の健康のとらえ方																																				
2	バイオ・サイコ・ソーシャルモデルによる対象理解																																				
3	精神の構造と機能																																				
4	ストレスと精神の健康																																				
5	家族と精神（心）の健康																																				
6	暮らしの場と精神（心）の健康																																				
7	現代社会と精神（心）の健康：社会構造の変化と社会病理																																				
8	現代社会と精神（心）の健康：現代社会における精神保健の主な問題																																				
9	基本的なコミュニケーション																																				
10	対象理解を深めるためのコミュニケーション																																				
11	患者―看護師関係の発展段階とその効果																																				
12	対人関係からみるプロセスレコード																																				
13	事例をもとにコミュニケーションについて考える																																				
14	プロセスレコードをもとに自分のコミュニケーションを振り返る																																				
15	医療者および養護教諭としての自己の精神の健康を保持増進するための課題を考える																																				
16																																					
履修上の注意事項	特になし。																																				
準備学習（予習・復習等）	講義内容については必ず復習し、不明な点があった場合はそのままにせず、自主的に質問すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。																																				
評価方法	筆記試験80%、学修態度（参加度）20%																																				
テキスト	岩崎弥生編（2022）『新体系看護学全書精神看護学①精神看護学概論／精神保健第5版』メヂカルフレンド社（全員購入） 岩崎弥生編（2022）『新体系看護学全書精神看護学②精神障害をもつ人の看護』メヂカルフレンド社（全員購入）																																				
参考文献	萱間真美・野田文隆(2015)『精神看護学Ⅰ 精神保健・多職種のつながり』南江堂 萱間真美・野田文隆(2015)『精神看護学Ⅱ 臨床で活かすケア』南江堂 武井麻子(2017)『系統看護学講座 精神看護の基礎』医学書院 川野雅資(2008)『患者―看護師関係とロールプレイング』日本看護協会																																				
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能 ○知識・理解 ○態度・志向性																																				



---

Copyright (c) 2004-2013 NTT DATA KYUSHU CORPORATION. All Rights Reserved.

タイトル「2022：鹿児島純心女子大学」、フォルダ「鹿児島純心女子大学-看護栄養学部-看護学科-2年生-専門教育科目-看護の軸となる領域-健康の科学」シラバスの詳細は以下となります。



ナンバリング	21249SC40		
科目名	感染看護		
担当教員	園田 麻利子		
配当年次	2年	グループ	11
講義室	(5-402)	開講時期	前期
曜日・時限	金 3	単位区分	必
授業形態	講義	単位数	1
関連資格			
備考	<p>新カリキュラム対応（2012年以降）          課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。          ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。</p>		
到達目標	<p>人類の長い歩みは病原微生物との関係の歴史である。この関係は現在でも変わっておらず、看護は常に感染に配慮して行わなければならない。この目的を達成するために以下のように目標を定める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感染症の概念と発病のメカニズムについて説明できる。</li> <li>2) 感染症対策の現状について説明できる。</li> <li>3) 感染看護の意義と役割について説明できる。</li> </ol>		
授業の展開計画	<p>本科目は8コマであり、感染症の概念と発病のメカニズムおよび感染予防に関する基礎知識を講義する。感染は、病原微生物との関係であるため既修科目の生体防御論で学んだ知識とつなげていく。また既修科目の援助技術論や生活援助論、同時に学んでいく診療援助論などの看護技術と関連されながら講義をすすめていくことで、看護の基本としての感染予防看護について考えていく。授業全般において病院等における看護師の実務経験を含んだ授業内容となる。</p>		
	回	内容	
	1	<p>感染(症)とはどんなことか。          日常生活でどんな感染症が生じているか。          感染症に対する看護の役割はどんなことか。</p>	
	2	<p>感染症(感染性胃腸炎・食中毒、上気道感染症、インフルエンザ)の症状・治療・予防・看護を考える。          今までの学生・その家族における感染症の罹患の経験の有無、その時がどのような状況であったか、また、それをどのように考えて実践したのかを振り返る。</p>	
	3	<p>COVID-19の病態・症状・予防・看護を考える。          COVID-19の発症により、自分・家族の生活・学習等の環境に変化を生じているか。生じているとすればどのようなことか その根拠はどのようなことかを考える。</p>	
	4	<p>感染症(HIV・AIDS)発病のメカニズム、日本の現状と世界の現状、症状・治療・予防・看護 を考える。</p>	
	5	<p>医療関連感染の予防対策を考える。          標準予防策と感染経路別予防策</p>	
	6	<p>医療関連感染の予防対策を考える。          職業感染防止の実践</p>	
	7	<p>医療関連感染の予防対策を考える。          院内感染管理          実習(看護方法実践)時の感染予防対策</p>	
	8	<p>医療関連感染の予防対策を考える。          地域医療施設の感染予防ケア          在宅での感染予防ケア</p>	
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生体防御論を復習の上で履修する。</li> <li>2) 自ら主体的に学習する姿勢を必要とする。</li> </ol>		

準備学習（予習・復習等）	「生体防御論」「援助技術論」「生活援助論」「診療援助論」で使用したテキストを事前に読んだ上で授業に参加する。新聞等の感染に関する日本・世界の現状に関心を持って授業に臨む。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定試験：90% COVID-19の発症による学生自身・家族の生活・学習等の環境の変化に関するレポート：10%
テキスト	岩田健太郎著(2016)『系統看護学講座専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症』医学書院（全員購入）
参考文献	森尾友宏著(2009)『病気がみえるvol.6 免疫・膠原病・感染症』MEDIC MEDIA
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用的技能 ○知識・理解 ○態度・志向性



タイトル「2022：鹿児島純心女子大学」、フォルダ「鹿児島純心女子大学-看護栄養学部-看護学科-2年生-専門教育科目-看護の軸となる領域-健康の科学」シラバスの詳細は以下となります。

戻る

ナンバリング	21249SC11																						
科目名	健康教育論																						
担当教員	鞍掛 洋美																						
配当年次	2年	グループ	11																				
講義室	(5-403)	開講時期	後期																				
曜日・時限	月2	単位区分	必																				
授業形態	演習	単位数	1																				
関連資格																							
備考	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。																						
到達目標	<p>本科目は看護の様々な機能のなかの教育的機能に焦点をあて、その実践力を高めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.健康教育の理念や理論について理解し、説明することができる。</li> <li>2.看護における患者教育、患者指導（学習支援）と、セルフケア教育における看護師の役割をについて理解し、説明することができる。</li> <li>3.個人および集団への健康教育の企画・実施・評価の過程と、対象に合わせたその展開方法について理解し、実践することができる。</li> </ol>																						
授業の展開計画	<p>本科目は看護の教育的機能に焦点をあて個別指導、集団指導の基本を身につけることをねらいとする。前半で健康教育の概念や健康行動理論の学修をした後、紙上事例を使用した指導案の作成・実施をグループ内で行う。次にクラス内での全体発表を通して学びを深めるという演習を行う。グループワークを基本とする。授業の展開は、指導場面のイメージが容易となるよう、病院や保健所における看護師や保健師の経験による事例を含んだ内容とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>1 看護における教育・指導的機能（講義） (1) 科目のねらい (2) 看護の作用 (3) 教育と看護の共通性</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2 健康教育の理念（講義） (1) 健康教育の歴史と理念 (2) 健康教育とヘルスプロモーション (3) 健康教育の定義 3 健康教育の対象と目的 (1) 健康教育の対象と目的 (2) 健康課題と健康教育（家庭・学校・職場・地域社会）</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4 健康行動理論の基礎（講義・発表） (1) 健康行動理論のレベルとモデル (2) 主な健康行動理論（ヘルスピリフモデル、セルフエフィカシー、変化のステージモデル等） (3) 理論を理解することの意義</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>5 健康教育の実際：個別指導①（講義） (1) 看護実践の場における教育のあり方 (2) 健康教育の展開（個別指導）</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>5 健康教育の実際：個別指導②（講義） (3) 対象の理解 (4) 個別指導技術（演習の概要と事例紹介、課題提示） (5) 指導案作成の意義と内容</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>5 健康教育の実際：個別指導の実際①（講義・演習） (1) 指導内容の検討 (2) ロールプレイングの理解と実施</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>5 健康教育の実際：個別指導の実際②（演習・発表） (3) ロールプレイングの振り返り (4) 指導の評価 (5) 指導内容の再構成</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>5 健康教育の実際：個別指導の実際③（発表・講義） (6) ロールプレイングの再演 (7) 考察「自己の生活行動の変容に対し、自己効力感を高められる指導とは」 (8) 個別指導のまとめ</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>6 健康教育の実際：集団指導①（講義） (1) 個別指導と集団指導の相違 (2) 集団指導の対象とアセスメント（生活背景、ライフサイクル、健康課題） (3) 集団指導の技術</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	1 看護における教育・指導的機能（講義） (1) 科目のねらい (2) 看護の作用 (3) 教育と看護の共通性	2	2 健康教育の理念（講義） (1) 健康教育の歴史と理念 (2) 健康教育とヘルスプロモーション (3) 健康教育の定義 3 健康教育の対象と目的 (1) 健康教育の対象と目的 (2) 健康課題と健康教育（家庭・学校・職場・地域社会）	3	4 健康行動理論の基礎（講義・発表） (1) 健康行動理論のレベルとモデル (2) 主な健康行動理論（ヘルスピリフモデル、セルフエフィカシー、変化のステージモデル等） (3) 理論を理解することの意義	4	5 健康教育の実際：個別指導①（講義） (1) 看護実践の場における教育のあり方 (2) 健康教育の展開（個別指導）	5	5 健康教育の実際：個別指導②（講義） (3) 対象の理解 (4) 個別指導技術（演習の概要と事例紹介、課題提示） (5) 指導案作成の意義と内容	6	5 健康教育の実際：個別指導の実際①（講義・演習） (1) 指導内容の検討 (2) ロールプレイングの理解と実施	7	5 健康教育の実際：個別指導の実際②（演習・発表） (3) ロールプレイングの振り返り (4) 指導の評価 (5) 指導内容の再構成	8	5 健康教育の実際：個別指導の実際③（発表・講義） (6) ロールプレイングの再演 (7) 考察「自己の生活行動の変容に対し、自己効力感を高められる指導とは」 (8) 個別指導のまとめ	9	6 健康教育の実際：集団指導①（講義） (1) 個別指導と集団指導の相違 (2) 集団指導の対象とアセスメント（生活背景、ライフサイクル、健康課題） (3) 集団指導の技術
回	内容																						
1	1 看護における教育・指導的機能（講義） (1) 科目のねらい (2) 看護の作用 (3) 教育と看護の共通性																						
2	2 健康教育の理念（講義） (1) 健康教育の歴史と理念 (2) 健康教育とヘルスプロモーション (3) 健康教育の定義 3 健康教育の対象と目的 (1) 健康教育の対象と目的 (2) 健康課題と健康教育（家庭・学校・職場・地域社会）																						
3	4 健康行動理論の基礎（講義・発表） (1) 健康行動理論のレベルとモデル (2) 主な健康行動理論（ヘルスピリフモデル、セルフエフィカシー、変化のステージモデル等） (3) 理論を理解することの意義																						
4	5 健康教育の実際：個別指導①（講義） (1) 看護実践の場における教育のあり方 (2) 健康教育の展開（個別指導）																						
5	5 健康教育の実際：個別指導②（講義） (3) 対象の理解 (4) 個別指導技術（演習の概要と事例紹介、課題提示） (5) 指導案作成の意義と内容																						
6	5 健康教育の実際：個別指導の実際①（講義・演習） (1) 指導内容の検討 (2) ロールプレイングの理解と実施																						
7	5 健康教育の実際：個別指導の実際②（演習・発表） (3) ロールプレイングの振り返り (4) 指導の評価 (5) 指導内容の再構成																						
8	5 健康教育の実際：個別指導の実際③（発表・講義） (6) ロールプレイングの再演 (7) 考察「自己の生活行動の変容に対し、自己効力感を高められる指導とは」 (8) 個別指導のまとめ																						
9	6 健康教育の実際：集団指導①（講義） (1) 個別指導と集団指導の相違 (2) 集団指導の対象とアセスメント（生活背景、ライフサイクル、健康課題） (3) 集団指導の技術																						

	(4) 演習の概要と事例紹介、課題提示 (5) 集団を対象とした健康教育の準備 (指導案の作成)
10	6 健康教育の実際：集団指導② (講義・演習) (6) 集団を対象とした健康教育の準備 (指導案の修正、指導教材の作成)
11	6 健康教育の実際：集団指導の実際① (発表) (1) グループ毎の発表：1～4グループ (2) 評価：各グループの共通性、相異性を理解 (3) 集団指導のポイント
12	6 健康教育の実際：集団指導の実際② (発表) (1) グループ毎の発表：5～8グループ (2) 評価：各グループの共通性、相異性を理解 (3) 集団指導のポイント
13	6 健康教育の実際：集団指導の実際③ (発表) (1) グループ毎の発表：9～12グループ (2) 評価：各グループの共通性、相異性を理解 (3) 集団指導のポイント
14	6 健康教育の実際：集団指導の実際④ (発表・講義) (1) グループ毎の発表：13グループ (2) 評価：各グループの共通性、相異性を理解 (3) 集団指導のポイント (4) 考察「自己の生活行動の変容に対し、自己効力感を高められる指導とは」 (5) 集団指導のまとめ
15	7 講義の振り返り、まとめ (講義)
16	
履修上の注意事項	演習は、紙上事例の対象理解、健康課題抽出、課題解決のための指導案作成、指導の実際(演習)、まとめという展開となる。グループは編成するが、個別指導は個人ワークで集団指導はグループワークを基本とする。紙上事例の対象理解のための学習、看護過程展開、指導案作成には、これまでに学修した「看護診断学」「生活調整援助論(病態編、看護編)」「プレゼンテーション技法」などの知識や技術を統合することが求められる。各自の事前学習やワークへの取り組みの姿勢が大切である。
準備学習(予習・復習等)	提示された課題は必ず行い個人ワーク、グループワークが効果的に進むようにする。事例展開は時間外でのワークが主となる。1回の授業に対し1時間程度の時間外学習。
評価方法	1. 個人レポート(課題の看護記録類、指導案、発表原稿、指導場面の再構成他)および個別指導、集団指導の実際の評価(評価表に基づく自己・他者評価の得点) 日々の課題と振り返りの期限内の提出と発表 (60%) 2. 単位認定試験 (40%)
テキスト	松本千明著 (2002)『健康行動理論の基礎』医歯薬出版(全員購入) 神馬征峰他著 (2019)『健康支援と社会保障制度②公衆衛生』医学書院(地域看護使用テキスト) 深井喜代子 (2021)『新体系看護学全書 基礎看護③基礎看護技術Ⅱ』メヂカルフレンド社(援助技術論等使用テキスト)
参考文献	武山満智子訳 (1990)『患者教育のポイント アセスメントから評価まで』医学書院 松本千明著 (2002)『健康行動理論 実践編』医歯薬出版 中村裕美子他著 (2011)『系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ』医学書院
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用性技能 ○知識・理解 ○態度・志向性



タイトル「2022：鹿児島純心女子大学」、フォルダ「鹿児島純心女子大学-看護栄養学部-看護学科-3年生-専門教育科目-看護の軸となる領域-健康の科学」シラバスの詳細は以下となります。

戻る

ナンバリング	21349SC41		
科目名	病態栄養学		
担当教員	木之下 道子		
配当年次	3年	グループ	11
講義室	(5-401)	開講時期	前期
曜日・時限	月2	単位区分	必
授業形態	演習	単位数	1
関連資格			
備考	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。		
到達目標	各疾患毎の病態栄養を理解するとともに、傷病者に対しての食事療法や再発予防の栄養管理について学ぶことがねらいである。 ①治療食の意義や特徴を理解し、説明できる。 ②チーム医療（栄養サポートチーム等）における各職種役割を理解し、説明できる。 ③栄養ケアマネジメント（NCM）を理解し、説明できる。 ④各栄養素の働きを理解し、説明できる。		
授業の展開計画	各疾患ごとの栄養管理、食事療法を看護面からとらえながら講義形式でおこなう。病院の管理栄養士としての実務経験を取り入れた授業を展開する。		
	回	内容	
	1	食生活と栄養食事療法、治療食の特徴と種類	
	2	医療・福祉の場における栄養食事療法・チーム医療と栄養療法	
	3	消化器疾患患者の栄養食事療法 胃・十二指腸潰瘍・便秘・下痢等	
	4	急性肝炎・慢性肝炎・肝硬変の栄養食事療法（BCAAについて 低たんぱく質）	
	5	糖尿病の栄養食事療法（1型・2型糖尿病）（糖尿病の食品交換表使用）	
	6	脂質異常症の栄養食事療法、高尿酸血症・痛風の栄養食事療法	
	7	肥満症の栄養食事療法（小児肥満・メタボリックシンドロームの栄養管理・先天性の代謝異常症・アレルギー疾患）	
	8	動脈硬化症・高血圧症の栄養食事療法	
	9	心臓疾患・脳卒中の食事療法	
	10	腎臓病の栄養食事療法（CKD・透析療法の栄養管理）	
	11	慢性腎臓病・ネフローゼ症候群の食事療法	
	12	がんの食事療法（外科療法・化学療法・放射線療法時・終末期）	
	13	慢性閉塞性肺疾患・貧血の食事療法（鉄欠乏性貧血）	
	14	高齢者・嚥下障害時の栄養食事療法（骨粗鬆症、蛋白質・エネルギー欠乏症）（咀嚼嚥下障害時）	
	15	褥瘡の栄養管理	
16			
履修上の注意事項	病態・薬・検査の読み方などトータル的な理解が必要になる。 他の教科もしっかり履修しておくこと。		
準備学習（予習・復習等）	教科書で疾患別の栄養食事療法をしっかりと把握して授業に望む。復習もおこなうこと。1回の授業に対し1時間程度の時間外学習。		
評価方法	期末試験80%、学習態度20%		
テキスト	後藤昌義、瀧下修一共著（2019）『新しい臨床栄養学』 南江堂（全員購入） 香川明夫監修（2020）『食品成分表2020』 女子栄養大学出版部（全員購入）		
参考文献	日本糖尿病学会編・著（2020）『糖尿病治療ガイド2020-2021』 文光堂 日本糖尿病学会編・著（2013）『糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版』 日本糖尿病協会・文光堂		
ディプロマ・ポリシーとの関連	◎汎用性技能 ○知識・理解 ○態度・志向性		

戻る

